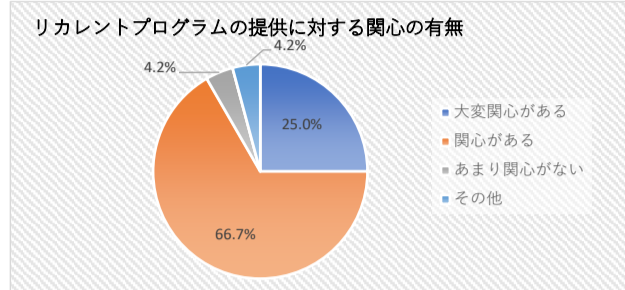


# 大学コンソーシアム大阪 会員大学におけるリカレント教育プログラムに関する基礎調査結果

調査主体：	大阪府内地域連携プラットフォーム
調査期間：	2022（令和4）年7月21日～8月31日
対象大学数：	大学コンソーシアム大阪 会員大学 39大学
回答大学数：	19大学 ※大阪公立大学は6部署から回答あり、各部署の回答は1件としてカウント。 (計24回答)

## 1. リカレントプログラムの提供に対する関心の有無

大変関心がある	6
関心がある	16
あまり関心がない	1
関心がない	0
その他	1

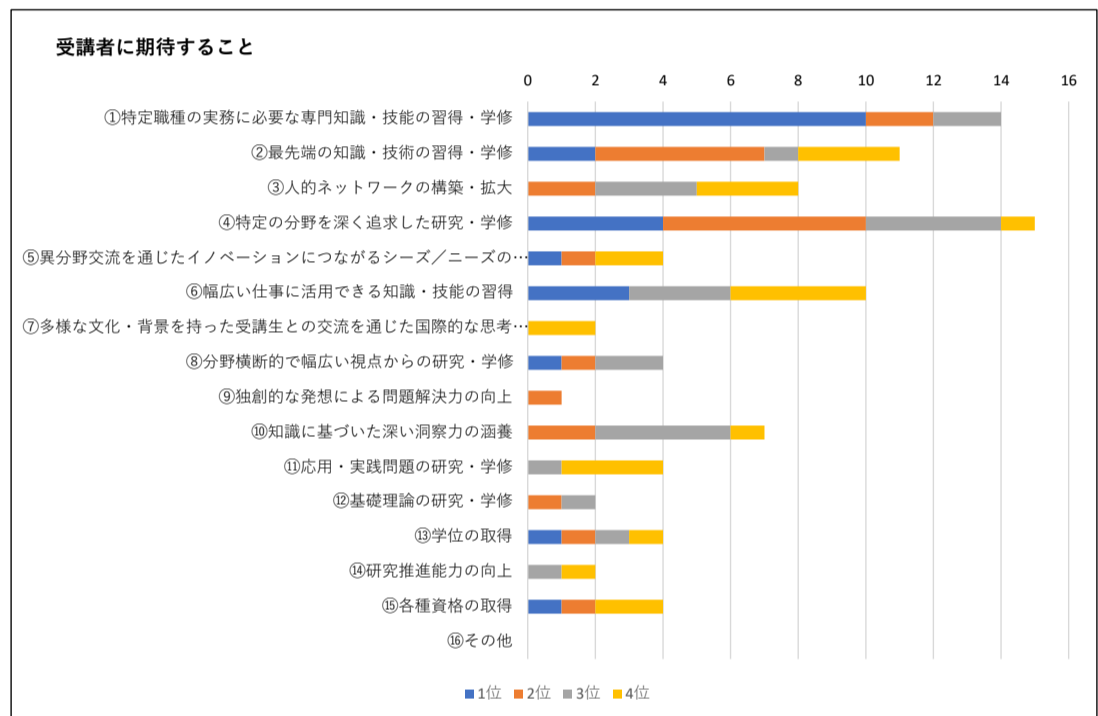


その他（自由記述）：  
 ・本格的なリカレント教育実施の前段階として、単発のプログラムを実施  
 あまり関心がない理由（自由記述）：  
 ・現時点では現役学生のための教育体制の構築や教育デジタルトランスフォーメーションの強化を優先課題としているため。

## 2. 自大学でのリカレント教育プログラムの実施にあたり、受講者に期待すること（最も期待するものから1位～4位まで順位付け）

	1位	2位	3位	4位
①特定職種の実務に必要な専門知識・技能の習得・学修	10	2	2	0
②最先端の知識・技術の習得・学修	2	5	1	3
③人的ネットワークの構築・拡大	0	2	3	3
④特定の分野を深く追求した研究・学修	4	6	4	1
⑤異分野交流を通じたイノベーションにつながるシーズ/ニーズの収集、発想	1	1	0	2
⑥幅広い仕事に活用できる知識・技能の習得	3	0	3	4
⑦多様な文化・背景を持った受講生との交流を通じた国際的な思考力・異文化理解の向上	0	0	0	2
⑧分野横断的で幅広い視点からの研究・学修	1	1	2	0
⑨独創的な発想による問題解決力の向上	0	1	0	0
⑩知識に基づいた深い洞察力の涵養	0	2	4	1
⑪応用・実践問題の研究・学修	0	0	1	3
⑫基礎理論の研究・学修	0	1	1	0
⑬学位の取得	1	1	1	1
⑭研究推進能力の向上	0	0	1	1
⑮各種資格の取得	1	1	0	2
⑯その他	0	0	0	0

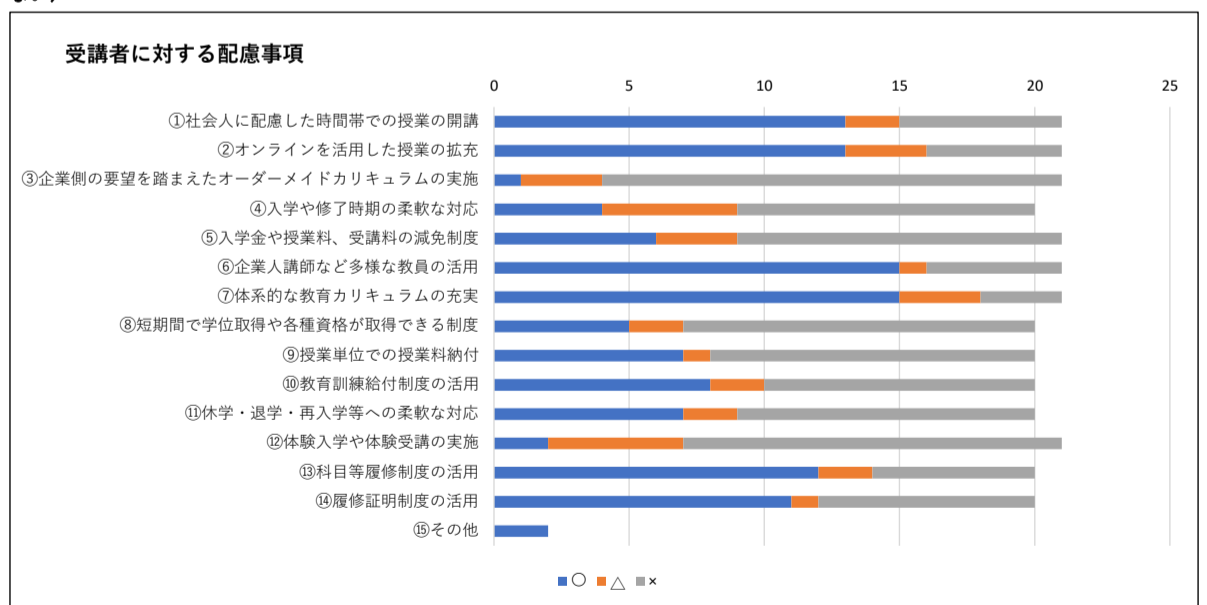
※未回答1件



## 3. 自大学のリカレント教育プログラムにおける受講者に対する配慮事項（○…すでに配慮している、△…配慮したいができていない、×…検討していない）

	○	△	×
①社会人に配慮した時間帯での授業の開講	13	2	6
②オンラインを活用した授業の拡充	13	3	5
③企業側の要望を踏まえたオーダーメイドカリキュラムの実施	1	3	17
④入学や修了時期の柔軟な対応	4	5	11
⑤入学金や授業料、受講料の減免制度	6	3	12
⑥企業人講師など多様な教員の活用	15	1	5
⑦体系的な教育カリキュラムの充実	15	3	3
⑧短期間で学位取得や各種資格が取得できる制度	5	2	13
⑨授業単位での授業料納付	7	1	12
⑩教育訓練給付制度の活用	8	2	10
⑪休学・退学・再入学等への柔軟な対応	7	2	11
⑫体験入学や体験受講の実施	2	5	14
⑬科目等履修制度の活用	12	2	6
⑭履修証明制度の活用	11	1	8
⑮その他	2	0	0

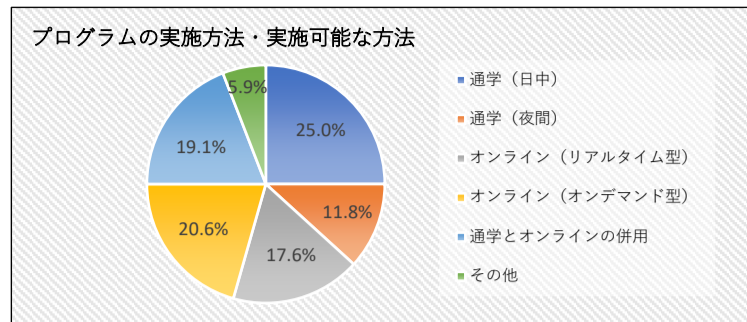
※未回答3件、及び一部の項目に対し、未回答の大学あり



その他（自由記述）：  
 ・標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、長期履修制度を導入  
 ・リカレント教育プログラムとしては実施していないが科目等履修などの制度は活用可能である。

4. 自大学で実施するプログラムの実施方法・実施可能な方法（複数選択可）

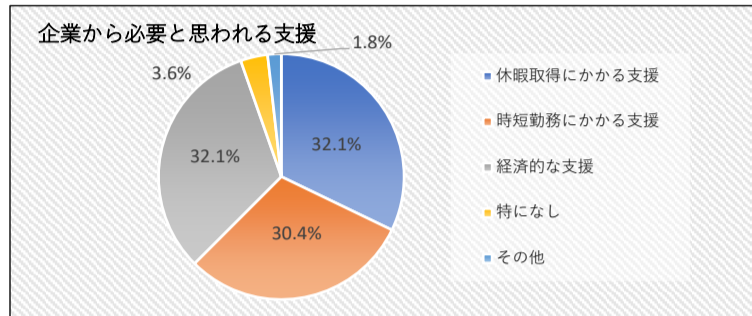
通学（日中）	17
通学（夜間）	8
オンライン（リアルタイム型）	12
オンライン（オンデマンド型）	14
通学とオンラインの併用	13
その他	4



その他（自由記述）：  
 ・プログラムによって実施方法は異なる。  
 ・オンライン（リアルタイム型）は、コロナ禍におけるスクーリングの時的対応として実施。  
 ・基本的には対面授業であるが、状況に応じてオンライン授業となる場合がある。  
 ・オンデマンドによる対応も可能ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響がなくなった場合には対面での授業を本学では主としている。

5. 社会人のリカレント教育プログラムの受講にあたり企業から必要と思われる支援（複数選択可）

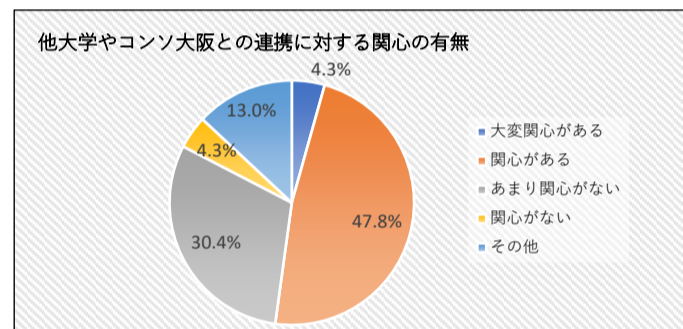
休暇取得にかかる支援	18
時短勤務にかかる支援	17
経済的な支援	18
特になし	2
その他	1



その他（自由記述）：  
 ・学び直しを推奨・啓発することでの心理的ハードル排除

6. リカレント教育プログラムの実施にあたり、他大学や大学コンソーシアム大阪との連携に対する関心の有無

大変関心がある	1
関心がある	11
あまり関心がない	7
関心がない	1
その他	3



その他（自由記述）：  
 ・本学では企業との共同研究講座や協働研究所から、大学・企業相互にメリットのあるリカレント教育プログラムの展開を考えている。そういった中で他大学や大学コンソーシアムとの連携がどのように関わり持つのか分からない。  
 ・経済界からの明確なニーズや要望があり、それを受けて他大学と連携でプログラム提供する場合、さらに関心が高まる。  
 ・本格的なリカレント教育プログラムの取り組み実施には至っていないため、他大学や大学コンソーシアム大阪との連携についても視野が広がっていないのが現状である。

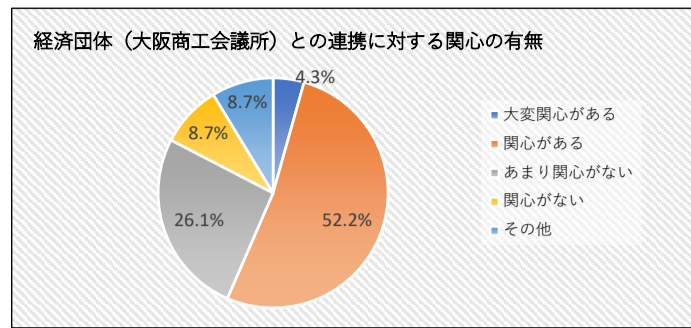
7. 複数大学連携によるプログラムの実施において参画可能なテーマ

・科学技術と社会について総合知を育成するプログラム  
 ・AIデータサイエンス  
 ・「地域（大阪）を探求する」、「地域社会と中小企業を学ぶ」、「公共と地域」

8. リカレント教育プログラムの実施にあたり、経済団体（大阪商工会議所）との連携に対する関心の有無

大変関心がある	1
関心がある	12
あまり関心がない	6
関心がない	2
その他	2

※未回答1件

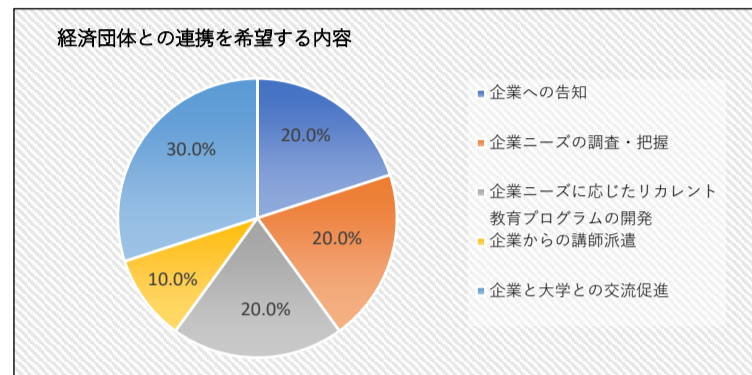


その他（自由記述）：

- ・医療系と経済団体との連携ニーズがまだ把握しきれておりません。できれば、経済団体様からご要望をお聞かせいただきたいです。
- ・リカレント教育プログラムの実施には至っていない。

8-2. 経済団体（大阪商工会議所）との連携を希望する内容 ※問8で「1」または「2」と回答した場合のみ（複数選択可）

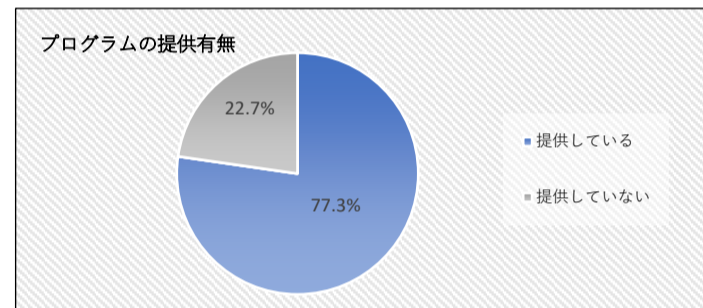
企業への告知	6
企業ニーズの調査・把握	6
企業ニーズに応じたリカレント教育プログラムの開発	6
企業からの講師派遣	3
企業と大学との交流促進	9
その他	0



9. 現在、自大学でプログラムを提供しているか

提供している	17
提供に向けて準備中（検討中を含む）	0
提供していない	5

※未回答2件

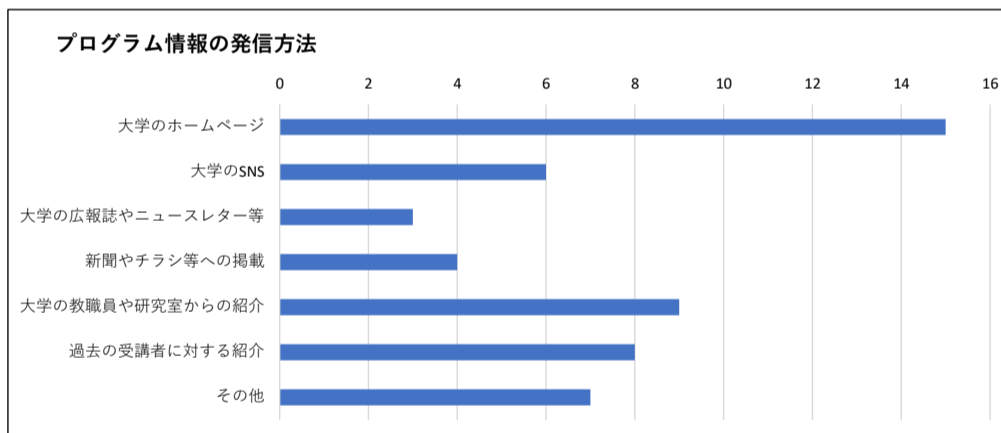


9-2. 自大学で実施するプログラム情報の発信方法（予定含む）※問9で「1」または「2」と回答した場合のみ（複数選択可）

大学のホームページ	15
大学のSNS	6
大学の広報誌やニュースレター等	3
新聞やチラシ等への掲載	4
大学の教職員や研究室からの紹介	9
過去の受講者に対する紹介	8
その他	7

SNS(具体的に)：

- ・Facebook、YouTube、Instagram、Twitter



その他（自由記述）：

- ・関連企業団体等への広報、勧誘活動
- ・教育委員会からの周知
- ・病院へのDM送付
- ・医学部一近畿「がんプロ」コンソーシアムに参画する各連携大学への周知
- ・情報ポータルサイト「マナビス」